

非破壊試験機

PRO Tester TI-50 / TI-70

アンカーボルト引張試験機

共通取扱書



TI-50 適合サイズ

M27～M45

D25～D38

TI-70 適合サイズ

M33～M56

D25～D51

1. 標準セット付属品一覧



Photo:T1-70

- 1 油圧ポンプ
- 2 センターホールシリンダー(ヘッドガード付き)
- 3 圧力計 ★
- 4 ラムチェア
- 5 油圧ホース 2本
- 6 専用ケース

★オプションにより圧力変換器の場合もございます。

2. 注意事項

1. 説明書をよく読み理解してから、ご使用ください。
2. 指定用途以外には、使用しないでください。損害、怪我を招く恐れがあります。
3. 圧力計・圧力変換器・変位変換器には、急激なショックを与えないでください。故障の原因となります。
4. 油を使用しているため、火気の附近や溶接作業を行っている場所では使用しないでください。
5. 使用中油温が60℃を越すと圧力が上がらない場合があります。冷却後、使用してください。
6. 油が目に入った場合は、清浄な水で15分間洗浄し、医師の診察を必ず受けてください。
7. 油が皮膚に触れた場合は、水と石鹸で十分に洗ってください。
8. 油を飲み込んだ場合は、無理に吐かせず、直ちに医師の診察を受けてください。

『引張荷重について』

あと施工アンカー引張試験での引張荷重は、それぞれの現場、または、設計事務所に

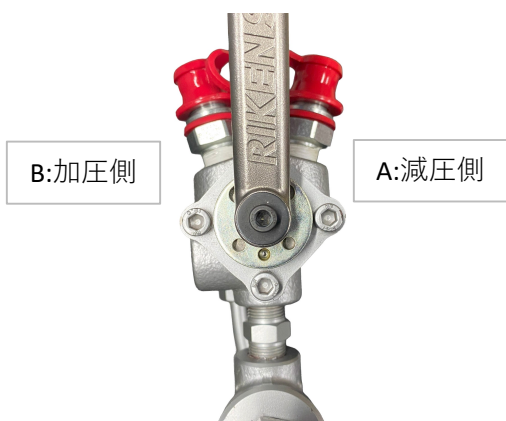
よって多少異なる場合があります。

設定荷重値は設計事務所、または、現場監督に確認した後、確認試験を行ってください。

本機は非破壊試験機です。母材の破壊やアンカーボルトの破断等のないよう、

加える荷重には十分注意してください。

3. 組立手順



- ① 油圧ポンプにホースを2本取り付けます。
ポンプには加圧側と減圧側がありますので、
注意して接続してください。

A:減圧側

B:加圧側



- ② センターホールシリンダーの下側カブラに
加圧側、上側に減圧側のホースを
接続してください。

⚠ ※カブラ同士をしっかりとめ込んでください。
隙間があると油もれや故障の原因になります。



- ③ センターホールシリンダーのヘッドガードを
右に回して締めきっているか確認します。
手で締めれる程度で問題ありません。

⚠ ※緩みや隙間があると破損の恐れがあります。



- ④ Mねじの場合、アンカーサイズに適合した、
カップリング(オプション品)を取り付けます。
※アンカーが異形鉄筋の場合は
別売の異形鉄筋チャックをご利用ください。



- ⑤ センターシャフトをねじ込みます。

※カブラとの隙間が無くなるまで

ねじ込んでください。



ねじ込みが不十分だとボルト等の

ねじ山が損傷し、ボルトや機械が飛び出して

事故や怪我を招く恐れがあります。

- ⑥ アンカーボルトの中心とラムチェア-の中心が
同芯になるように設置します。

ラムチェア-の上にセンターホールシリンダーを
設置します。

- ⑦ ワッシャー、ナットをセットして、全体的に
ガタつかない程度に締め込みます。

以上で組立完了です。



※壁面及び天井向きの場合、落下による

怪我や機械の破損が考えられます。

必ず落下防止措置を講じてください。

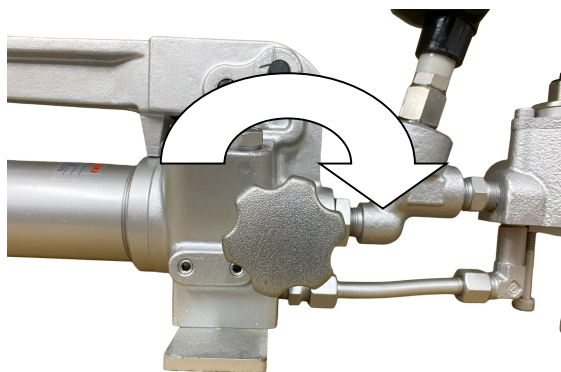
4. 操作手順



- ① 圧力計の電源ボタンを押し、起動します。
起動時に表示された値が「0」でない場合、
値が「0」になるまで [Zero] ボタンを
長押ししてゼロ点を合わせます。



- ② ポンプのレバー握り部を手で上から押して、
ロックピンを外し、空気弁を開放します。



- ③ バルブを右方向にゆっくり回します。

**⚠ 停止するまで回してください。
但し工具等を使用して回すと破損の恐れが
ありますので必ず手で回してください。**



- ④ 方向弁をBの加圧側に向けてポンプを
操作し目標荷重まで載荷します。

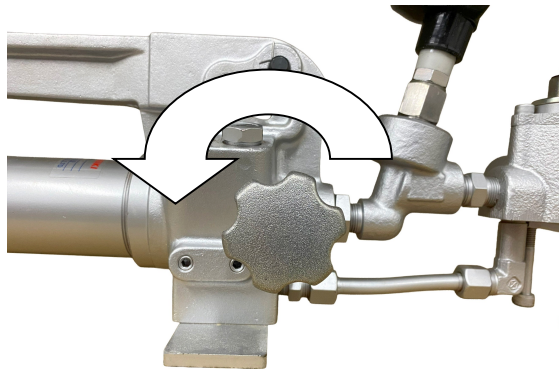
【最大載荷速度の目安】

$$\text{アンカーねじ径の有効断面積(mm}^2\text{)} \times \frac{\text{毎秒}}{0.02\text{kN/mm}^2} = \text{kN}$$

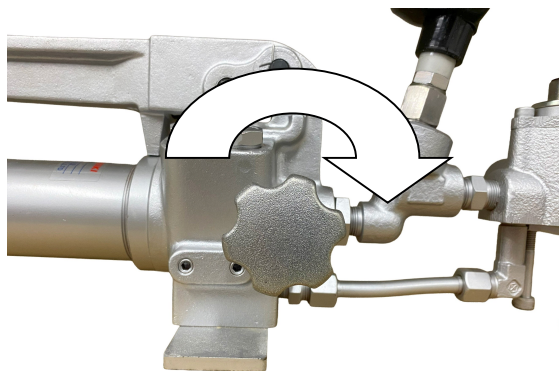
(例) M48の場合

$$1472\text{mm}^2 \times \frac{\text{毎秒}}{0.02\text{kN/mm}^2} = \text{毎秒 } 29.44\text{kN}$$

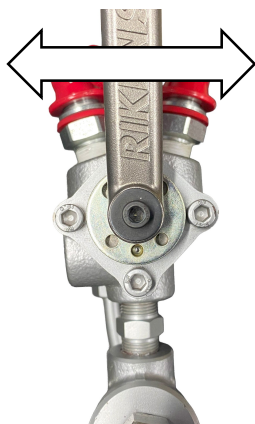
⚠ ボルトの先端に顔、体を向けない



- ⑤ 設定値に達した時点の値を写真撮影など、必要に応じた方法で記録を行ったら、バルブを左方向(ポンプ側)にゆっくり回して開放し、除荷します。



- ⑥ 出戻バルブを右方向にゆっくり回します。方向弁をAの減圧側に向けて加圧ハンドルを操作しシリンダーのストローク量を原点まで戻します。



- ⑦ ストローク量が原点に戻ると圧力計の値が増加しますので、5kN程度になったらバルブを開放して除荷します。

※圧が抜けたら方向弁を2回程度、AとBを行き来させて残圧がないか確認します。

ご使用後は下記の通りに操作してください。

- ・出戻バルブを全閉にする。
- ・空気弁を全閉にする。
- ・レバー握り部をロックピンで固定する。
- ・高圧ホースを外す。
- ・油圧カブラには必ずキャップを付ける。
- ・方向弁は中立の位置にする。



販売店	販売担当
	検品